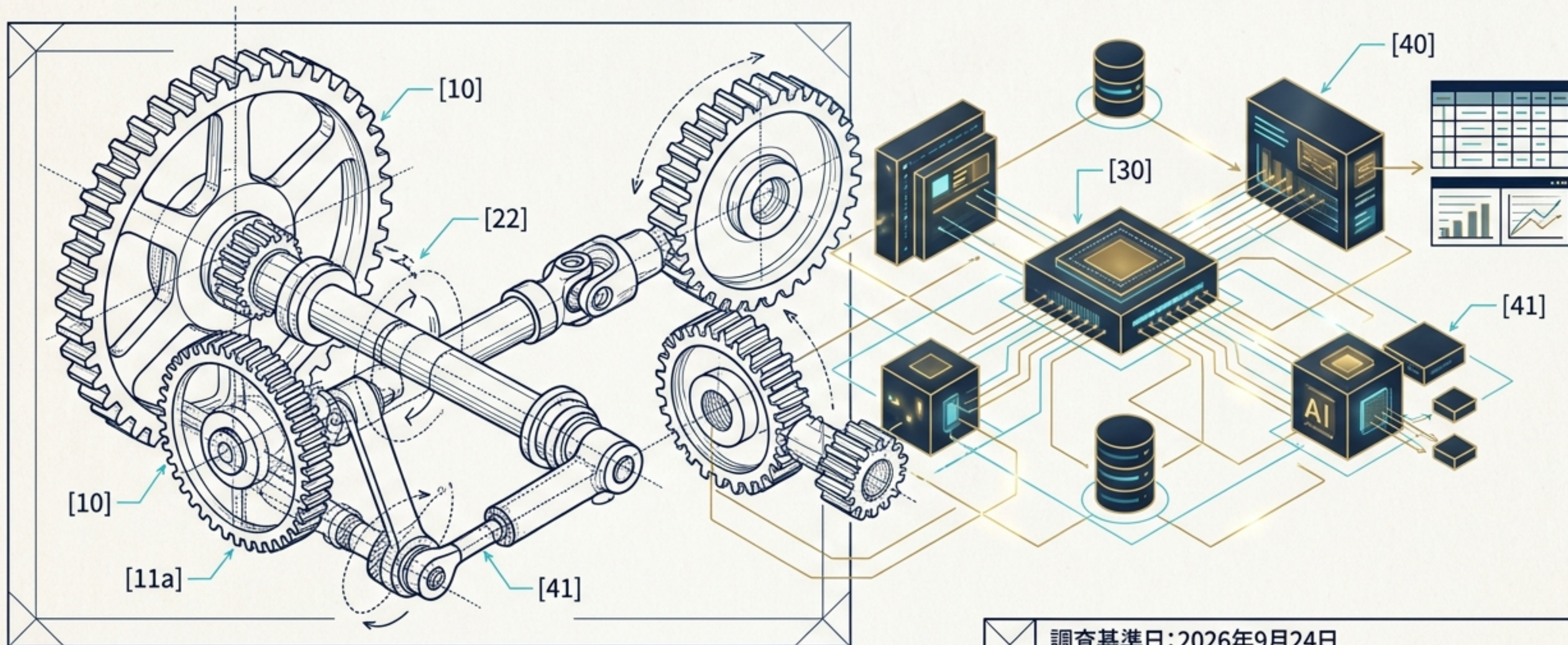


生成AIによる「図面と表」の読解・作成の現在地

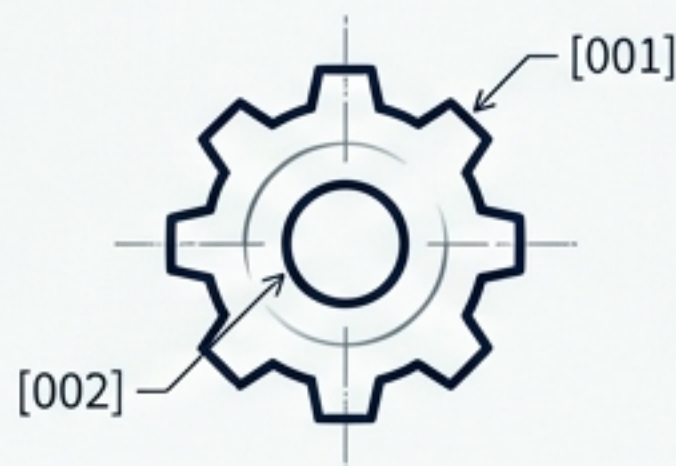
知財情報フェア（2025 vs 2026）比較から読み解く、AIの「機能」から「実務プロセス」への統合



調査基準日：2026年9月24日

対象：2025年および2026年の知財・情報フェア出展技術

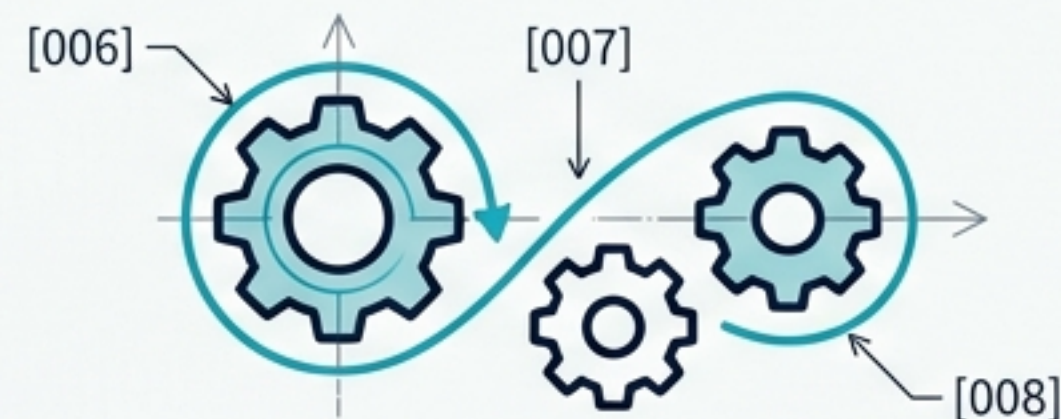
2026年の最大の変化:「単発の作業」から「実務ワークフロー」への直結



2025年: 独立した機能群

- 図面の説明 [003]
- 表画像からの単純な数値抽出 [004]
- 単体でのテキスト生成 [005]

AIは「特定の作業を代行する独立ツール」



2026年: プロセス統合

- 編集可能な図面出力 [009]
- Wordや知財管理システムとの自動同期 [010]
- 審査対応 (中間対応) への直接的な連携 [011]

AIは「明細書作成・審査対応
エコシステムの一部」へ進化

分析の前提:「生成AI」と「従来技術」の厳格な区別

対象外:従来技術・非生成AI

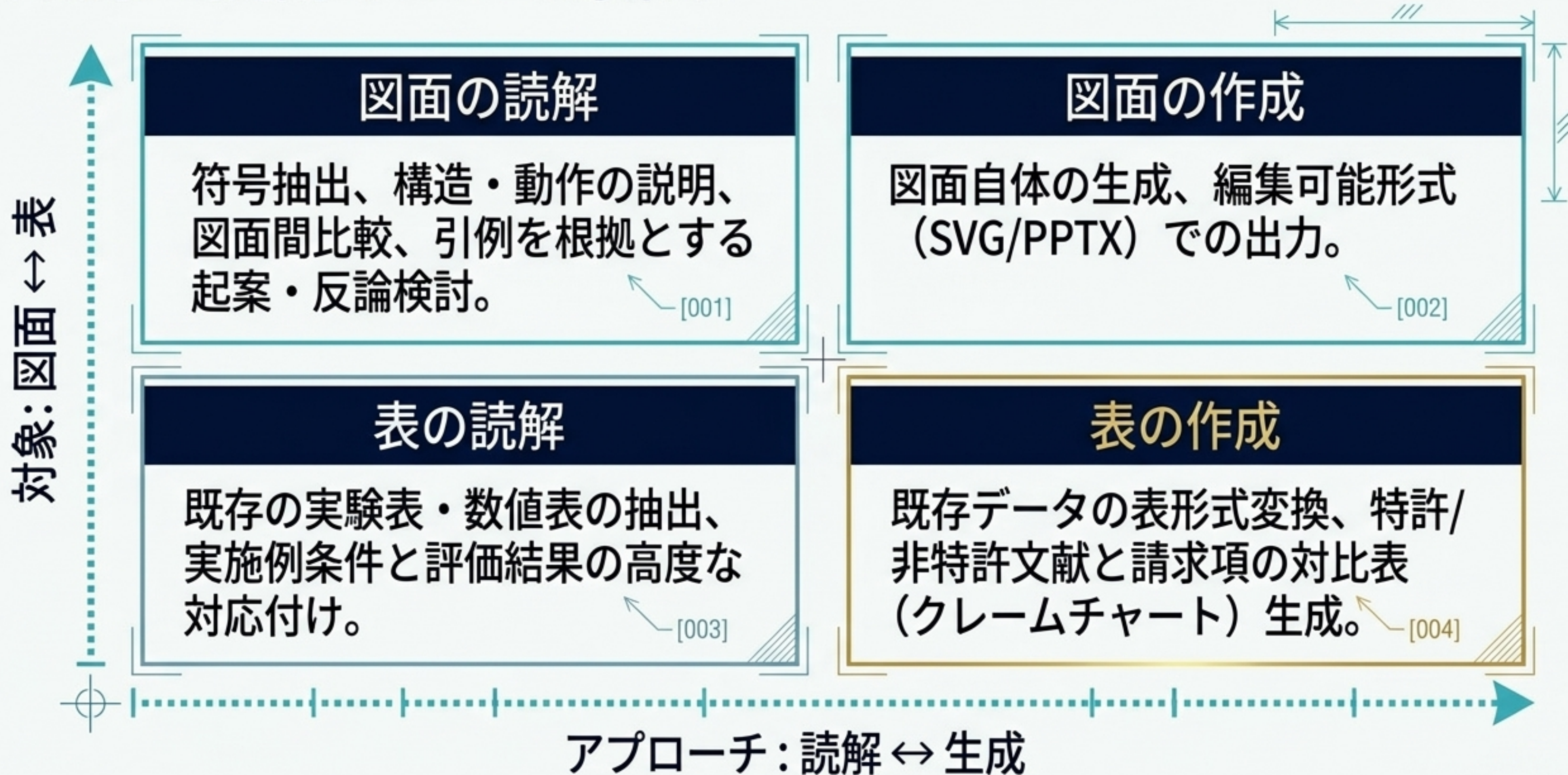
- 画像の類似検索
- OCR (単純な文字・符号の抽出)
- 既存の表の単純な画像化・Excel変換
- 従来型の作図ツール・グラフ表示

本稿の焦点:文脈理解と生成

- 文脈理解を伴う図面・実験表の読解と推論
- 編集可能な「構造的」特許図面の生成
- 複数文献間の比較・対比表 (クレームチャート) 生成

【Insight】全てを「AIの進化」として混同すると技術の現在地を見誤る。
本レポートは「文脈理解」と「後続業務への接続」に絞って評価する。

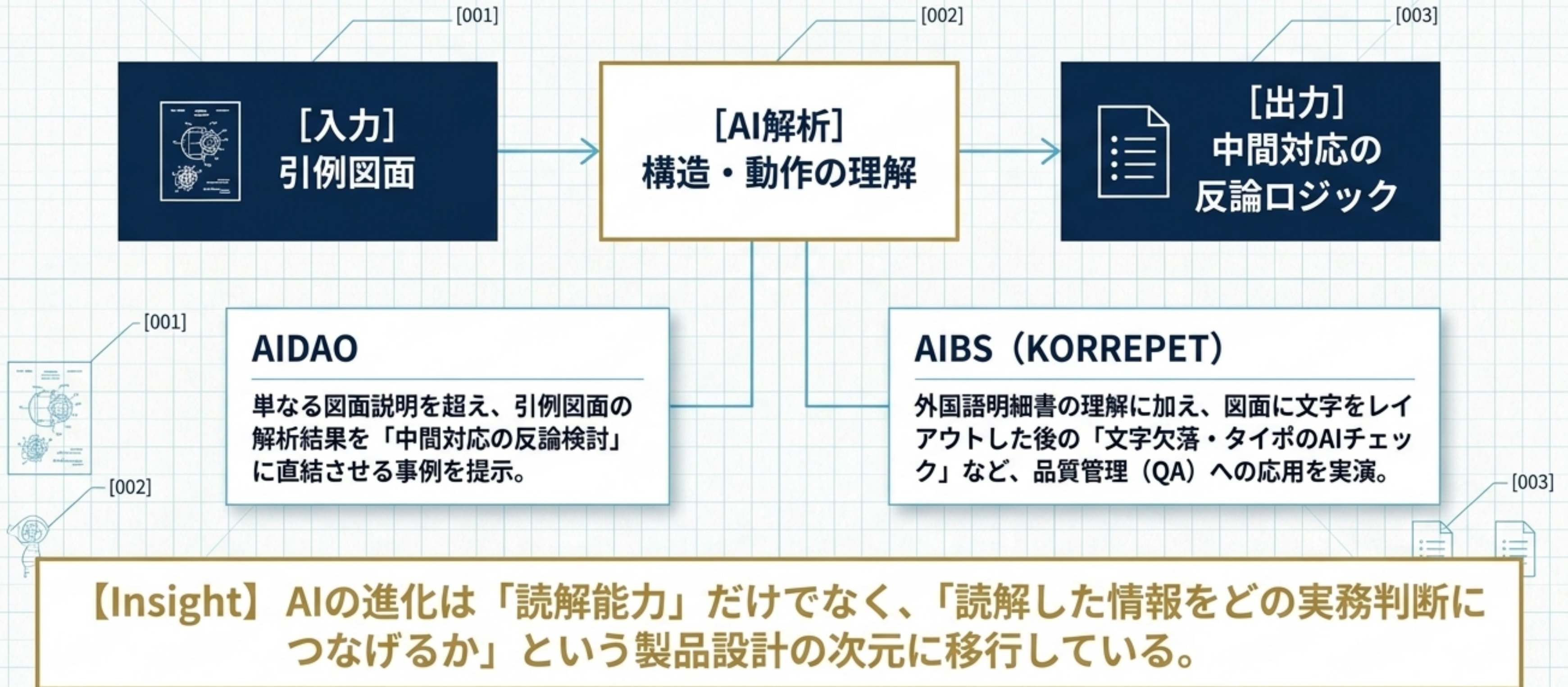
知財AI技術の4つの象限



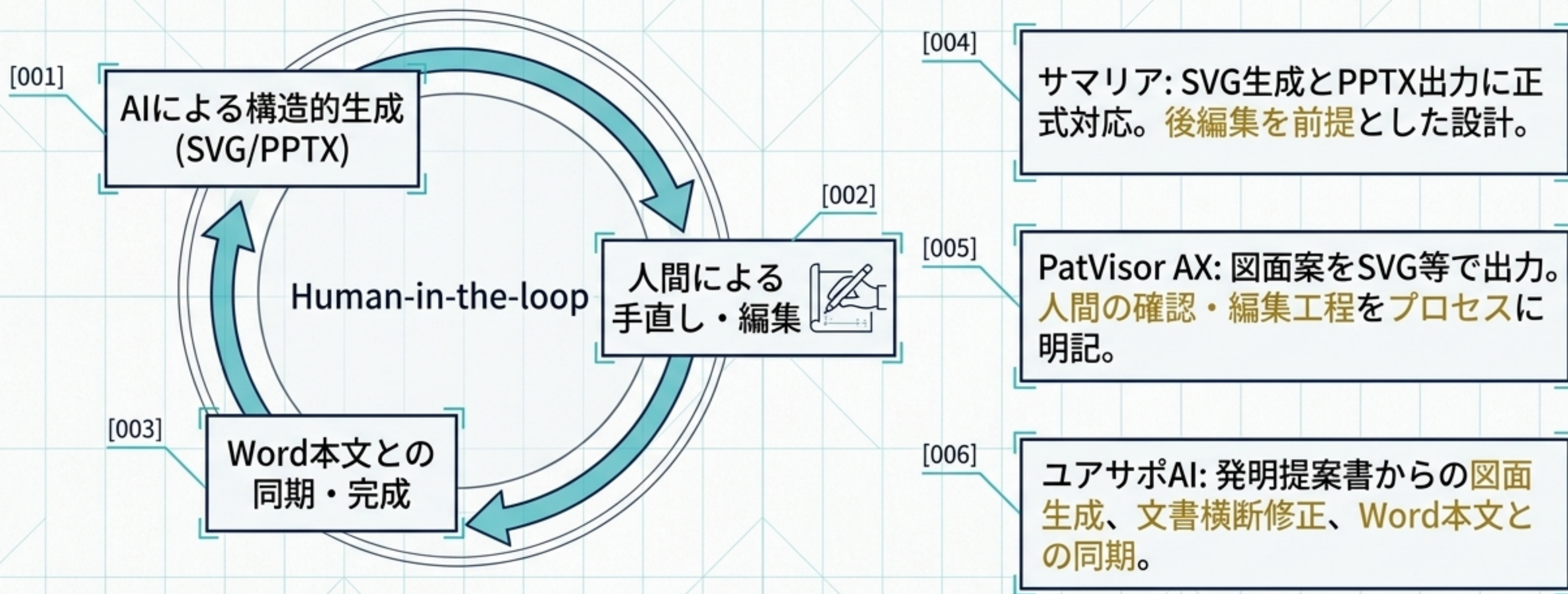
年次比較サマリー：機能の拡張と後続業務への接続

領域	2025年	2026年	変化の評価 (Insight)
図面の読解	符号抽出、説明、 図面間比較 [008]	引例図面を使った 反論検討、図面からの 起案 [009]	読解情報の「実務判断 (審査対応等)」への 活用が拡大 [004]
図面の作成	図付き提案書、 解析レポート [009]	明細書用図面生成、 SVG/PPTX出力、 文書横断修正 [000]	作成後の「人間の編集 工程」との接続が 具体化 [005]
表の読解	画像からExcelへの 抽出 [001]	実施例の条件と評価 結果の抽出・比較 [002]	用途は広がるが、精度 改善の証拠は限定的 [006]
対比表の作成	文献や請求項からの 表生成 [008]	非特許文献対応、 引用根拠の付与、 審査対応連携 [003]	対象資料の拡大とト レーサビリティの重視 [004]

深掘り 1: 「図面の読解」は実務判断の根拠へ



深掘り 2: 「図面の作成」の成否を分ける編集可能性



コアメッセージ：図面生成において最も重要なのは「完全自動化」ではなく、技術的に正しい構造を人間が手直しできる形式で出力する「編集可能性 (Editability)」である。

深掘り 3: 「表の読解」の現在地と死角 (Reality Check)

主要ツール: リーガルテック (AI IPGenius), サマリア

[001]		[002]		[003]			
[002]		試料構成		実験条件		測定結果	
[001]		材料A (wt%)	材料B (wt%)	温度 (°C)	圧力 (MPa)	引張強度 (MPa)	伸び率 (%)
[002]	試料番号	15.5	15.5	350	2.0	45.2*2	12.5%
	試料番号	15.5	10.5	350	2.0	45.2*1	12.5%
	試料番号	15.5	12.5	350	2.0	45.2*2	12.5%
	試料番号	15.5	10.3	350	2.0	45.2*2	12.5%
[001]		15.5*1	10.8	350	2.0	45.2*2	12.5%

Warning Pin 1

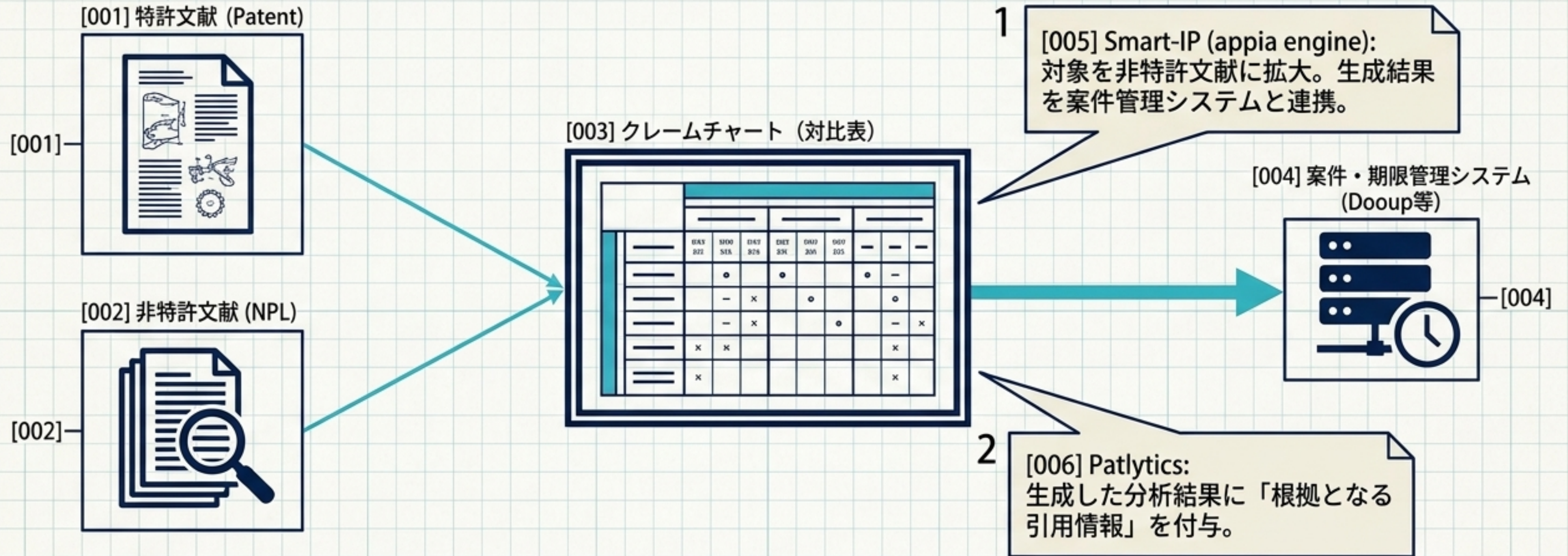
結合セルと階層構造：列見出しや試料番号の対応関係を維持できるか？

*1: 特定条件での測定

結合セルと階層構造：列見出しや試料番号の対応関係を維持できるか？
単位と脚注の紐付け：測定条件や特記事項を数値と正しく結びつけられるか？

【Reality Check】 抽出用途は拡大しているが、複雑な実験表の誤読率や再現性を測る共通評価基準は未確立。盲信は禁物であり、人間による検証プロセスが不可欠。

深掘り 4: 「対比表作成」の対象拡大とトレーサビリティ



【Insight: トレーサビリティ】

表を「作る」能力以上に、各セルの判断が「原文のどこに基づいているか（引用根拠）」へワンクリックで遡れる設計が、2026年の競争軸となっている。

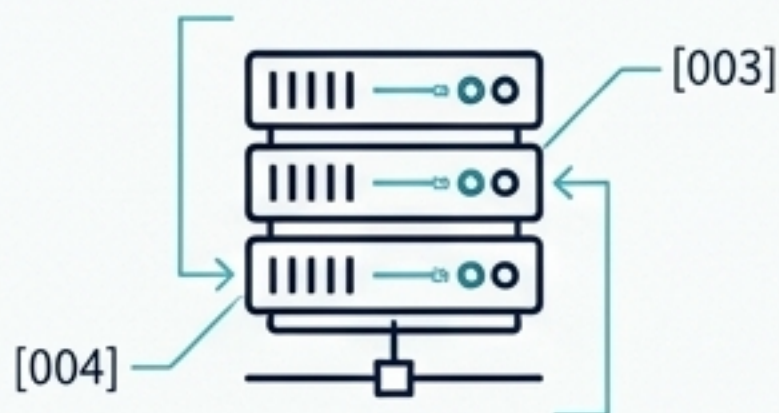
展開環境の多様化：未公開資料とセキュリティ要件への対応



Local Edge AI

ローカルPC完結

アイビーリサーチ（AIPs）：
特許専用ローカルLLMを使用。
図面・化学式の画像とRAGを参照し、外部ネットワークに接続せずPC上で実施形態を生成。



On-Premise

自社専用サーバー

トランスエヌ（N-Patent）：
請求項、論文、図面から明細書本文を生成する「完全オンプレミス設計」を訴求。

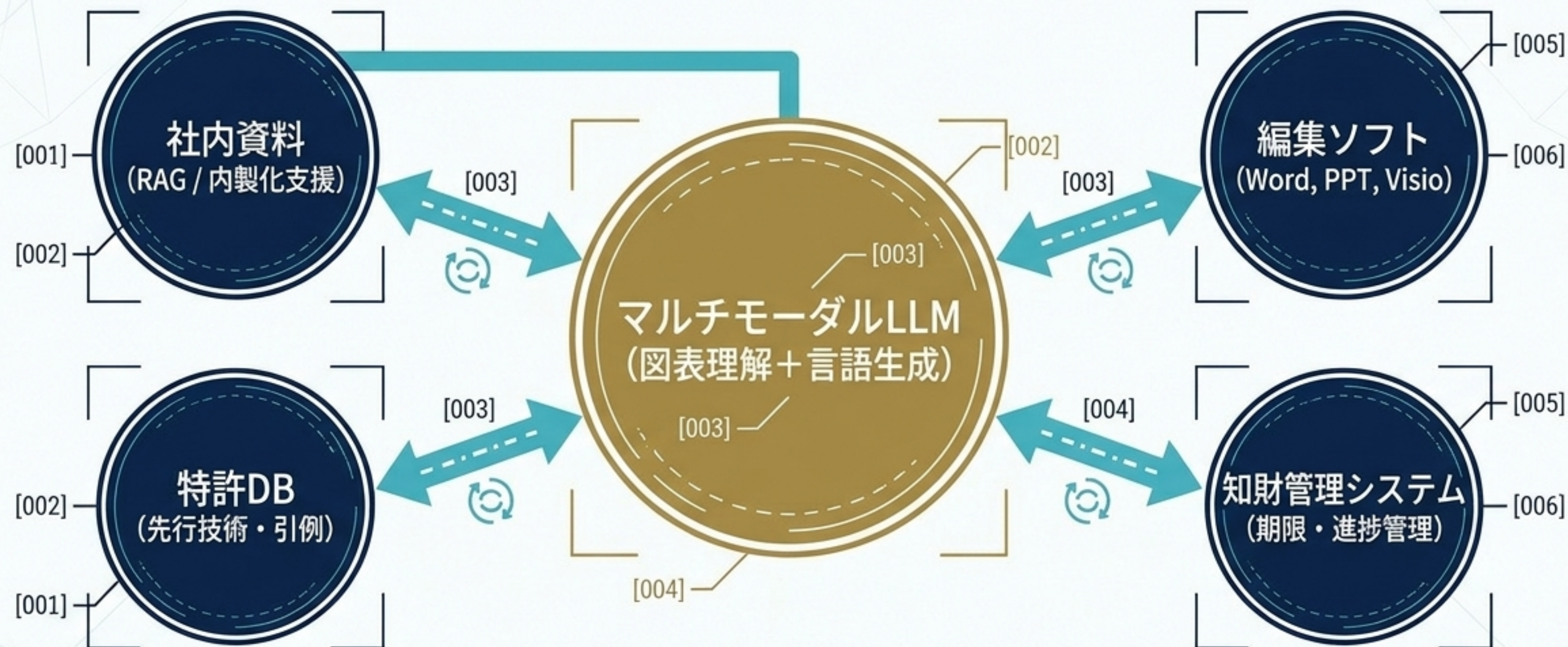


API / Cloud

クラウドエコシステム連携

ASU（Aicrea）：
先行技術調査から知財管理システムとのデータ連携・期限管理まで、クラウドベースでのシームレスな統合。

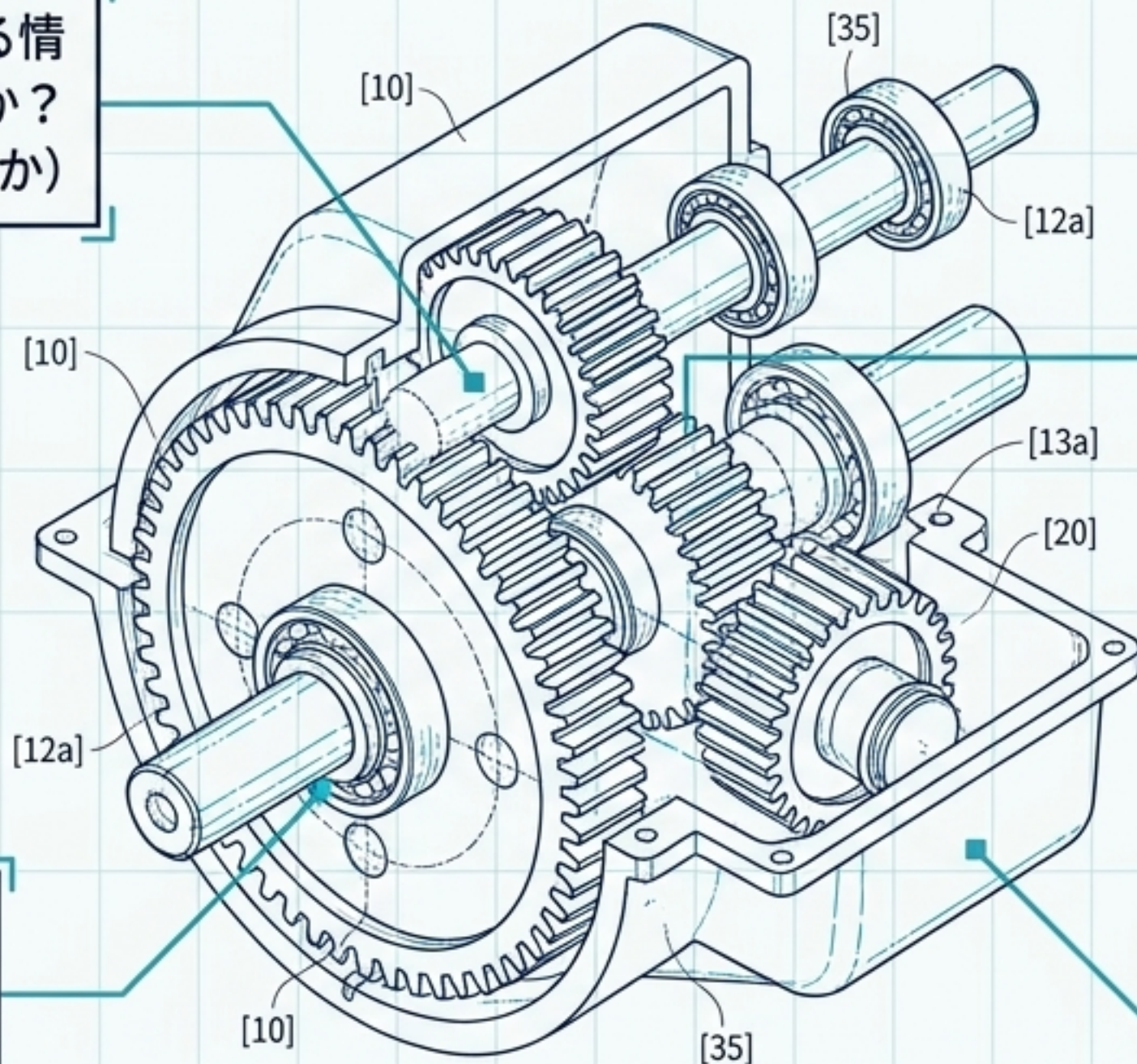
統合的視点：エコシステム化する知財AIアーキテクチャ



2026年の最前線は、単一の専門機能を極めることから、「複数の専門機能と既存システムの結合」へとシフトした。画像を読み込むLLMを中心に、読解・生成・編集・管理のデータがシームレスに循環するエコシステムの構築が本格化している。

実務者のためのツール診断表【図面編】

[読解] **推論の区別**: 画像だけにある情報と、AIの推測を区別できているか？
(不明箇所を無理に補完していないか)



[読解] **位置と接続**: 符号、接続線、部品の空間的位置関係を正しく認識しているか？

[生成] **編集の担保**: 出力後、線・符号・文字を人間が個別に修正できるか？ (SVG/PPTX対応の有無)

[生成] **整合性の維持**: 明細書の文章を変更した際、図面側の符号や構成と整合を保つ同期機能があるか？

実務者のためのツール診断表【表・業務フロー編】



[100]

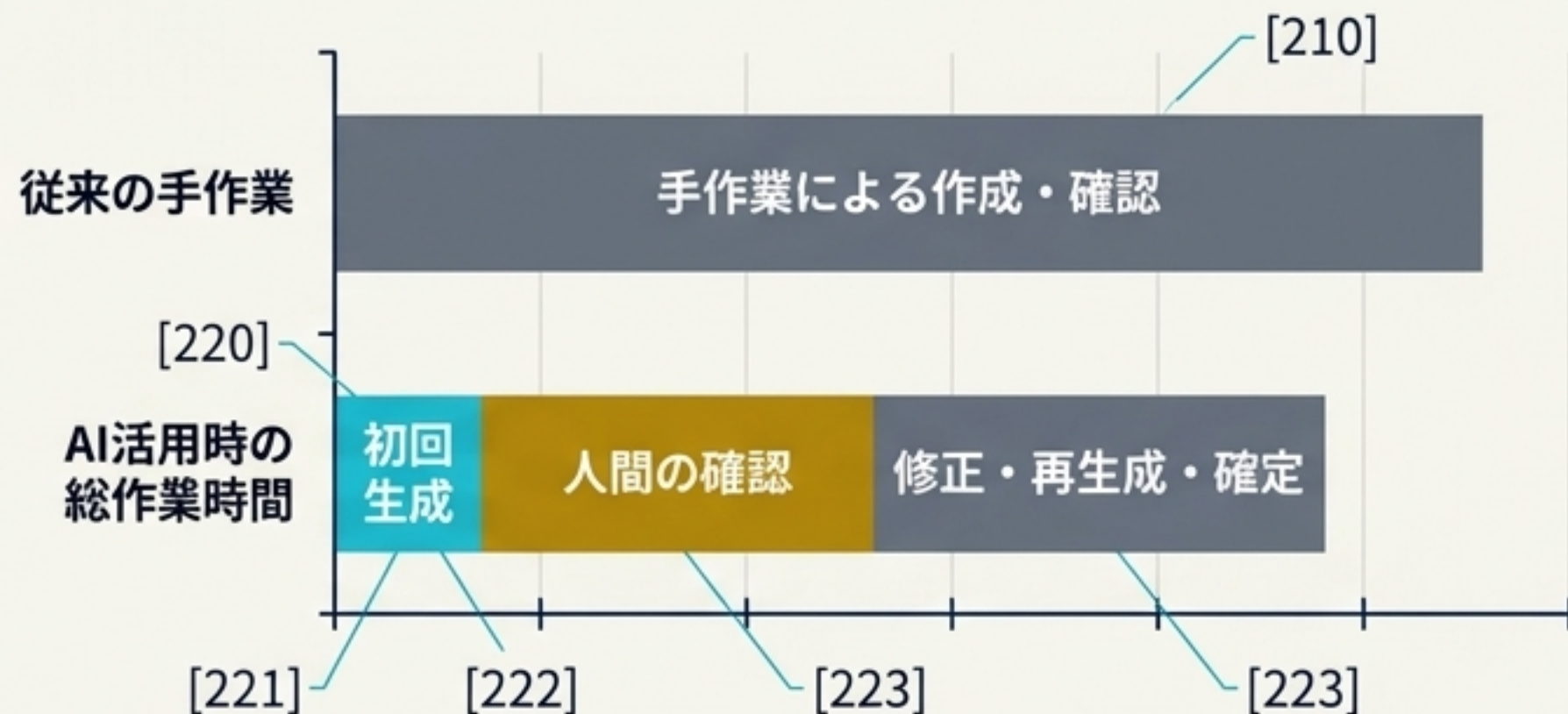
表読解・生成のチェックポイント

[101]

- **構造の維持**：結合セル、単位、脚注、試料と測定条件の対応関係が崩壊していないか？ [102]
- **トレーサビリティ**：対比表の各セルの判断について、原文の該当箇所（引用根拠）へワンクリックで遡って検証できるか？ [103]

業務効果の真の指標（Total ROI）

[201]



【Key Question】

「初回出力の速さ」に惑わされていないか？人間の確認と修正を含めた「**総作業時間 (Total Time)**」が確実に削減される設計になっているか？ [230]

結論と知財実務家への提言 (Key Takeaways)



[300]

[301]

1. 「作る」から「繋ぐ」へ

ツール選定の基準をアップデートせよ。生成される図表の美しさだけでなく、「既存の編集ソフト (Word/PPTX) や知財管理システムとの接続性」を最優先事項とする。

[301]



[310]

[311]

2. 「編集可能性」が価値を決める

特に図面生成においては、完全自動化は幻想である。
「人間が手直しできる形式 (SVG等)」で出力し、業務プロセス内で完成させる (Human-in-the-loop) 設計のツールを選ぶこと。

[311]



[320]

[321]

3. 「検証」を前提とした運用

表の読解やクレームチャート生成では、AIの推論と事実を分離することが必須。判断の根拠となった原文へ即座に遡れる「トレーサビリティ」を持たないツールは、実務のリスクとなる。

[321]